

子どもの性同一性障害 ～揺れる教育現場～



視聴率 8.7%

株式会社ビデオリサーチ
世帯視聴率 (関東地区)

ジャンル

社会問題

医療・福祉

教育



出演者

中塚 幹也 さん

(岡山大学大学院教授)

今、教育現場では、体の性と心の性が一致しない「性同一性障害」の子どもへの対応に揺れている。文部科学省は今年初めて、自分の性に違和感を訴える子供たちへの学校の対応についての調査結果を公表。全国の小中学校や高校で

「性同一性障害」とみられる児童・生徒は、少なくとも600人以上で、その対応に教育現場が苦慮している実態が明らかになった。自分の性に違和感を抱く子供の中には、悩みを独りで抱え込んだり、周囲に理解されずに、不登校や自傷行為にいたるケースも少なくない。トイレや更衣室、制服、さらに部活動の選択など、男女の棲み分けが当たり前のように行われてきた教育現場で、本人の精神的負担を減らすにはどう配慮すべきか。さらに周りの同級生や保護者にどのように伝えていくべきか。自らの性に悩む子供たちの現状とともに、対応に揺れる教育現場の模索を伝える。

これまでの放送

No.3591

2014年12月9日(火) 放送

[ツイート](#) [シェアする](#) [チェック](#) [共有する](#) [?](#)

※NHKサイトを離れます



子どもの性同一性障害 ～揺れる教育現場～

子どもの性同一性障害 求められる対応

●こうした取り組みが行われている学校はどれくらいある？

だいぶ増えてきてるんですけども、学校単位で見ると、すごくやっている所とそうでない所と、さまざまですね。学校の中でも、先生も温度差がすごくあるというような状況です。



●取り組みが進むための鍵とは？

やはり正しい理解というところが一番大きくて、基礎的な知識を持っていただく、あるいは社会的にどういうふうな状況なのかを知っていただくというのが、学校の中でいろんな子ども、あるいは学校の先生方、場合によっては保護者の方に1人でも多くそういうことを伝えていっていただくというのが、すごく大事になると思います。

●クラスでオープンな議論をするなどの取り組みは大事？